

会 社 内 容 説 明 書

事業年度 自 平成22年 7月 1日
(第17期) 至 平成23年 6月30日

株式会社 旅籠屋

会社内容説明書

平成23年9月30日作成

作成会社名 株式会社 旅籠屋

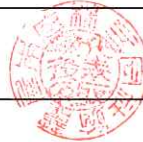
代表者の役職氏名 代表取締役社長 甲斐 真



会社名(定款上の商号) 株式会社 旅籠屋

英文名(英文商号) Hatagoya & Company

代表者の役職氏名 代表取締役社長 甲斐 真



本店の所在地	電話番号	連絡者
東京都台東区寿3丁目3番4号	03-3847-8858	代表取締役社長 甲斐 真

もよりの連絡場所	電話番号	連絡者
同 上	同 上	同 上

取扱証券会社

取扱会員(証券会社)名 みどり証券株式会社

取扱部店名	電話番号	連絡者
本店	03-5148-3961	片岡

目次

	頁
第一部 【企業情報】	1
第1 【企業の概況】	1
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【沿革】	2
3 【事業の内容】	3
4 【関係会社の状況】	3
5 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	3
1 【業績等の概要】	4
2 【生産、受注及び販売の状況】	5
3 【対処すべき課題】	5
4 【事業等のリスク】	6
5 【経営上の重要な契約等】	9
6 【研究開発活動】	10
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	10
第3 【設備の状況】	11
1 【設備投資等の概要】	11
2 【主要な設備の状況】	11
3 【設備の新設、除却等の計画】	12
第4 【提出会社の状況】	13
1 【株式等の状況】	13
2 【自己株式の取得等の状況】	15
3 【配当政策】	15
4 【株価の推移】	15
5 【役員の状況】	16
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	16
第5 【経理の状況】	18
1 【計算書類等】	18
2 【主な資産及び負債の内容】	28
3 【その他】	29
第6 【提出会社の株式事務の概要】	31
第7 【提出会社の参考情報】	31
1 【提出会社の親会社等の情報】	31
2 【その他参考情報】	31

監査報告書

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第13期	第14期	第15期	第16期	第17期
決算年月		平成19年6月	平成20年6月	平成21年6月	平成22年6月	平成23年6月
売上高	(千円)	405,094	526,845	678,470	797,356	817,329
経常利益又は損失(△)	(千円)	21,027	15,316	△37,514	18,524	16,621
当期純利益又は純損失(△)	(千円)	17,890	10,579	△84,775	11,226	9,929
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)	—	—	—	—	—
資本金	(千円)	331,000	331,000	331,000	331,000	100,000
発行済株式総数	(株)	6,245	6,245	6,245	6,245	6,245
純資産額	(千円)	274,096	284,675	199,899	211,126	220,555
総資産額	(千円)	388,713	469,811	1,026,433	1,170,048	1,122,085
1株当たり純資産額	(円)	43,810.46	45,504.46	32,009.53	33,727.20	35,317.17
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額)	(円)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,000 (—)
1株当たり当期純利益 又は純損失(△)	(円)	2,864.84	1,694.00	△13,574.99	1,797.74	1,589.97
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	2,529.83	1,500.99	—	—	—
自己資本比率	(%)	70.4	60.5	19.5	18.0	19.7
自己資本利益率	(%)	6.8	3.8	△35.0	5.5	4.6
株価収益率	(倍)	72.0	70.8	—	36.0	42.8
配当性向	(%)	—	—	—	—	69.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	40,791	40,676	21,250	133,567	91,682
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△38,657	△76,525	△46,923	△11,720	△22,242
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△36,474	61,058	87,341	△78,696	△80,039
現金及び現金同等物の 期末残高	(千円)	18,780	43,989	105,657	148,807	138,207
従業員数	(名)	33	51	77	82	78

(注)

- 1 当社は連結計算書類を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には消費税等が含まれておりません。
- 3 第15期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、最終損益が損失となるため記載しておりません。
- 4 第16期および第17期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 5 第13期以降第17期までの上記キャッシュ・フローの指標につきましては監査を受けておりません。

2 【沿革】

年月	概要
平成 6年 7月	東京都足立区において株式会社旅籠屋本店設立 資本金1,000万円
平成 7年 8月	1号「日光鬼怒川店」開業
平成10年 2月	第三者割当増資 資本金4,000万円
平成10年 4月	第三者割当増資 資本金1億5,000万円
平成10年 7月	東京に本社オフィス開設
平成11年11月	VIMEX(日本証券業協会のグリーンシート市場においてディー・ブレイン証券等が独自に運営する売買制度)に登録
平成11年12月	VIMEXにおいて公募増資 資本金2億4,900万円
平成12年 4月	2号「那須店」開業
平成12年 6月	3号「秋田六郷店」開業
平成12年 9月	商号を株式会社旅籠屋に変更
平成13年 4月	第三者割当増資 資本金2億8,100万円
平成13年 7月	4号「山中湖店」、5号「沼田店」開業
平成13年 8月	中小企業金融公庫(現 日本政策金融公庫)より、成長新事業育成特別融資
平成13年 9月	6号「水戸大洗店」開業
平成14年 7月	7号「北上店」開業
平成15年 4月	日本証券業協会の規則改正により当社株式をグリーンシート銘柄エマージング区分に指定
平成16年 4月	8号「仙台亙理店」開業
平成16年 7月	9号「小淵沢店」開業
平成17年 7月	10号「前橋南店」開業
平成17年12月	11号「九十九里店」開業
平成18年 3月	12号「東京新木場店」開業
平成18年 3月	㈱リサ・パートナーズと業務提携
平成18年 4月	第三者割当増資 資本金3億3,100万円
平成19年 3月	13号「千葉勝浦店」開業
平成19年 4月	14号「軽井沢店」開業
平成19年 4月	15号「須賀川店」開業
平成19年 7月	16号「いわき勿来店」開業
平成19年 7月	17号「牧之原店」開業
平成19年10月	18号「金沢内灘店」開業
平成19年12月	19号「葦崎店」開業
平成20年3月	20号「土岐店」開業
平成20年4月	21号「伊賀店」開業
平成20年4月	22号「壇之浦PA店」(西日本高速道路初のホテル)開業
平成20年6月	23号「松阪東店」開業
平成20年7月	24号「浜名湖店」開業
平成20年7月	25号「新潟南店」開業
平成20年7月	26号「佐野SA店」(東日本高速道路初のホテル)開業
平成21年3月	27号「奈良針店」開業
平成21年4月	28号「彦根店」開業
平成21年7月	29号「桑名長島店」開業
平成21年7月	30号「寒河江店」開業
平成22年3月	「ハイ・サービス日本300選」受賞
平成22年11月	資本金の額の減少および剰余金処分 資本金1億円
平成23年7月	31号「高松店」開業
平成23年7月	32号「富士吉田店」開業
平成23年7月	33号「袖ヶ浦店」開業

3 【事業の内容】

(1) 事業の内容

当社は、宿泊特化型小規模宿泊施設「ファミリーロッジ旅籠屋」の企画立案および経営を主たる業務としております。当事業は、米国で定着しているロードサイドホテルの事業形態を日本でも展開しようとするもので、1店舗当たり12~20室程度の規模で、主要幹線道路沿いなどに立地する車利用者のための宿泊施設です。

平成7年8月、第1号店を栃木県鬼怒川温泉近くにオープンして16年目に入りましたが、予想を上回る好評をいただき、店舗数も33(平成23年9月30日現在)に増え、日本初の汎用ロードサイドホテルチェーンとして注目を集めております。好評をいただいている要因としては、宿泊料金が低廉であるだけでなく、お仕着せのサービスがないため、自由で気楽な旅を楽しめることが挙げられます。

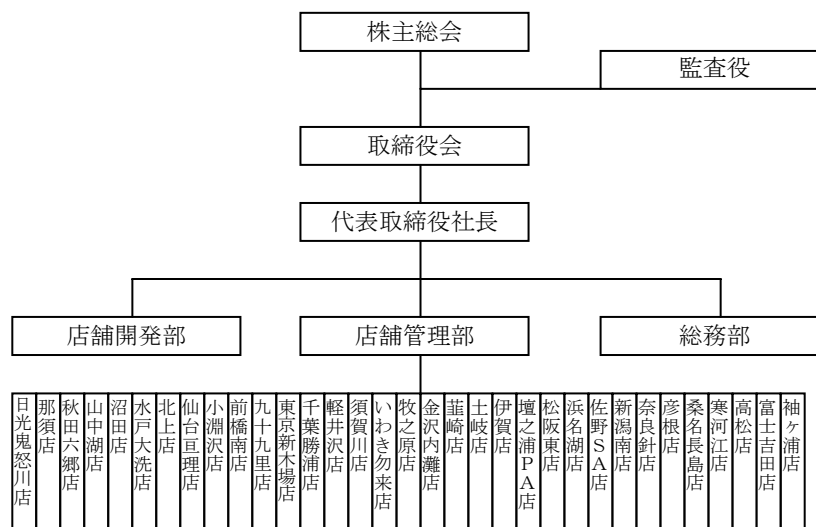
また、店舗はすべて当社の直営で、運営は当社の社員である支配人夫婦が住み込みで行うため、責任を持った運営が可能で、飲食提供や物販を行わないため周辺の商店とも共栄共存をはかることができます。地元へ貢献し、地域と密着して発展していく事業と言えます。

店舗の出店については、当初4号店までは、建物を自社で建築(所有)しての出店でしたが、事業の実績や将来性、当社の信頼性が評価され、5号店以降は遊休地のオーナーに建物を建築いただき、これを当社が一括して借上げ、経営と運営を行う方式で出店を行っております。この場合、建物建築費などの費用負担がないため、出店スピードを加速することが可能で、土地所有者にとっても遊休地の長期安定活用となるため、多くの法人・個人より引き合いを受けるようになっております。今後も、この方式を中心に出店を行う計画です。

「ファミリーロッジ旅籠屋」は、間違いなく多くの人が待ち望んでいた新しいスタイルの宿泊施設であり、しかも、車社会を支えるインフラ施設として社会的意義の高い事業でもあります。引き続き、潜在顧客の開拓と新規出店に努め、早期に全国への店舗網の拡大を実現したいと考えております。

(2) 経営組織図

(平成23年9月30日現在)



4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成23年6月30日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
78	51.5	3.9	2,237

(注) 平均年間給与は、平成22年7月から23年6月までの支給実績に基づいて計算しており、賞与及び基準外賃金を含み、年度途中入社及び年度途中退社した者については、月割りで年収換算しております。

(2) 労働組合の状況

当社に労働組合は結成されておりませんが、労使関係は良好であります。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

16年前、日本初の欧米型汎用ロードサイドホテルとして誕生した「ファミリーロッジ旅籠屋」ですが、マイカー旅行者待望の宿泊施設として支持され、年間で延22万人以上、累計で延120万人を超える方々にご利用いただくに至っております。

当期内には新規の出店はありませんでした。7月に3店舗を出店、四国へもエリアを拡大しました。高速道路SA・PA内店舗も順調で、新しい旅行スタイルを可能にする車社会の基盤施設として、需要を喚起し市場を創生する先導的役割を果たしております。

前期は、前半は売上高・経常利益ともに前年同期を上回り好調でしたが、3月の東日本大震災および福島原発事故の影響により、後半はいずれも前年同期を下回る結果となりました。個別には、「仙台亘理店」「いわき勿来店」「北上店」「須賀川店」など被災地に近い店舗は復興需要により稼働率が増加しましたが、大部分がビジネス利用であるため、売上高・経常利益の増加は限定的であり、栃木県・千葉県・東京都内の店舗は、観光客の減少により、業績が大きく低下しました。観光需要の落ち込みにより、業界全般の低迷が顕著なようですが、当社の場合、観光・ビジネスを問わない汎用施設であるため、比較的堅調と言えるものの、影響は明らかです。

この結果、通期でも前々期に比べ、稼働率（58.5→60.8%）売上高（+2.5%）は上回りましたが、経常利益（18,524→16,621千円）は減益となりました。しかし、上半期が好調であったこともあり、税引後当期損益（11,226→9,929千円）は黒字を維持しました。

【店舗別状況】当期の店舗別の客室稼働率、売上高および経常損益は、以下のとおりです。（単位：千円）

部門別	客室稼働率	(前期)	売上高	(前期)	構成比	経常損益	(前期)
00 本社	—		8,300	(3,702)	1.0%	▲73,913	(▲73,687)
01 日光鬼怒川店	56.3%	(54.6%)	38,086	(38,864)	4.7%	7,462	(8,743)
02 那須店	55.9%	(58.3%)	26,722	(28,914)	3.3%	6,312	(7,892)
03 秋田六郷店	42.7%	(34.1%)	13,249	(12,018)	1.6%	173	(▲2,011)
04 山中湖店	60.2%	(67.2%)	33,586	(35,320)	4.1%	7,761	(9,382)
05 沼田店	86.1%	(79.0%)	28,710	(28,755)	3.5%	5,343	(5,386)
06 水戸大洗店	58.6%	(62.4%)	22,350	(25,010)	2.7%	1,114	(3,910)
07 北上店	60.6%	(36.5%)	20,081	(14,963)	2.5%	▲272	(▲4,420)
08 仙台亘理店	65.4%	(55.3%)	23,552	(22,131)	2.9%	2,436	(901)
09 小淵沢店	83.0%	(84.2%)	30,220	(30,429)	3.7%	7,339	(8,181)
10 前橋南店	71.2%	(71.8%)	15,769	(16,105)	1.9%	2,029	(2,555)
11 九十九里店	74.4%	(75.0%)	25,600	(26,300)	3.1%	4,387	(5,185)
12 東京新木場店	74.9%	(73.6%)	72,488	(78,768)	8.9%	8,922	(11,425)
13 千葉勝浦店	79.0%	(82.4%)	28,216	(30,497)	3.5%	5,878	(7,896)
14 軽井沢店	59.3%	(59.6%)	18,575	(18,319)	2.3%	4,428	(4,718)
15 須賀川店	65.8%	(55.5%)	22,259	(21,270)	2.7%	1,378	(629)
16 いわき勿来店	63.4%	(56.2%)	28,298	(28,176)	3.5%	4,963	(4,876)
17 牧之原店	50.2%	(44.4%)	21,166	(19,156)	2.6%	201	(▲1,751)
18 金沢内灘店	45.4%	(44.5%)	19,687	(19,482)	2.4%	▲593	(▲817)
19 蕪崎店	66.0%	(65.1%)	24,516	(24,228)	3.0%	3,849	(3,763)
20 土岐店	52.3%	(45.2%)	20,859	(18,681)	2.6%	▲1,631	(▲2,793)
21 伊賀店	36.6%	(34.2%)	18,362	(17,009)	2.2%	▲3,065	(▲3,314)
22 壇之浦 PA 店	65.3%	(69.2%)	33,222	(33,956)	4.1%	6,361	(7,150)
23 松阪東店	51.0%	(54.6%)	23,214	(21,838)	2.8%	2,106	(1,645)
24 浜名湖店	39.6%	(41.3%)	22,964	(23,884)	2.8%	▲3,954	(▲2,752)
25 佐野 SA 店	69.5%	(71.3%)	35,262	(34,840)	4.3%	6,213	(6,234)
26 新潟南店	48.9%	(57.0%)	20,879	(23,301)	2.6%	▲3,065	(▲58)
27 奈良針店	62.5%	(63.6%)	29,078	(26,679)	3.6%	4,558	(4,781)
28 彦根店	49.7%	(46.6%)	24,239	(22,066)	3.0%	▲835	(▲515)
29 桑名長島店	81.8%	(68.9%)	46,319	(34,631)	5.7%	15,878	(9,062)
30 寒河江店	48.6%	(38.1%)	21,485	(18,051)	2.6%	▲2,098	(▲3,611)
31 高松店	—	(—)	—	(—)	—	▲1,014	(—)
32 富士吉田店	—	(—)	—	(—)	—	▲1,683	(—)
33 袖ヶ浦店	—	(—)	—	(—)	—	▲223	(—)
34 宮島 SA 店	—	(—)	—	(—)	—	▲130	(▲66)
合計	60.8%	(58.5%)	817,329	(797,356)	100.0%	16,621	(18,524)

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前事業年度末に比べ、10,600千円減少し、当事業年度末には、138,207千円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローは次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動では、税引前当期純利益が17,278千円となったこと、減価償却費を69,305千円計上したこと等により、結果として、91,682千円の増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動では、有形固定資産の取得による支出15,821千円等により、22,242千円の資金減少となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動では、短期借入れによる収入50,008千円、長期借入金の返済による支出94,210千円、ファイナンス・リース債務の返済による支出35,837千円により、結果として80,039千円の減少となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社は、雑誌等のパブリシティやインターネットのホームページ等、利用者に対する直接的なPRに基づき、宿泊客を獲得しております。当期における販売実績を事業ごとに示すと、次の通りです。

事業の種類		金額(千円)	前年同期比(%)
直営店事業	室 料 売 上	756,345	+2.2
	販 売 貸 出 品 売 上	9,162	△10.3
	そ の 他 売 上	43,520	+0.4
	小 計	809,028	+1.9
本部事業	企 画 調 整 費 売 上	7,913	+163.8
	そ の 他 売 上	386	△44.9
	小 計	8,300	+124.2
		817,329	+2.5

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

- (1) 店舗集客関連 …… 既存店の業績を維持拡大し、全社で当期並み以上の最終利益を実現
 - ・赤字店舗（北上店、金沢内灘店、土岐店、伊賀店、浜名湖店、新潟南店、彦根店、寒河江店）の黒字転換と他の既存店の業績維持拡大。
 - ・7月にオープンした「高松店」「富士吉田店」「袖ヶ浦店」の早期の利益寄与を図る。
- (2) 新規出店の加速と地域の拡大 …… 7月オープンの「高松店」「富士吉田店」「袖ヶ浦店」、11月オープン予定の「宮島SA店」を含め、来期中に5～6店舗前後の新規出店を行い、営業エリアの拡大を図る。
- (3) 高速道路SA・PAへの出店 …… さらに「宮島SA店」の11月オープンが決まっているが、さらにSA・PA内出店を具体化し、ロードサイドホテルへの認知度向上、潜在需要の掘り起こしを図る。
- (4) 本格的な事業拡大に備えた社内体制の基盤整備
本社業務の見直し・再編による、本社業務の組織化・効率化と店舗管理体制の強化を図る。

4 【事業等のリスク】

以下には、当社の事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、事業上のリスクとして具体化する可能性は必ずしも高くはないとみられる事項も含め、投資家の投資判断上重要と考えられる事項については、投資家及び株主に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。当社は、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、その発生の予防および発生の際の対応に努力する方針ですが、当社株式に関する投資判断は、本項目以外の記載内容もあわせて慎重に検討された上で、行われる必要があると考えております。

(1) 外部環境について

① 他社との競合について

「旅籠屋」は、立地、汎用性などの面で既存の宿泊施設と異なるため、現状明らかな競合は存在しません。

しかし、資金力豊富な内外の大手ホテルチェーンなどが類似の店舗展開を図り、しかもその立地が「旅籠屋」に近接する場合、稼働率に影響を受ける可能性があります。

ただし、類似チェーンの出現は「旅籠屋」のような宿泊特化型のロードサイドホテル全体の認知度を高め、新しい旅行需要を喚起することにつながり、市場の拡大を生み出す効果も大きいと考えます。

② 需要の絶対量と稼働率について

「旅籠屋」は従来なかったスタイルの宿泊施設ですが、少人数単位の自由な旅行ニーズの増大にマッチし、すでに延べ100万人を超えるご利用をいただいております。ベーシックな宿泊施設であるため、経済情勢の変化に大きく左右されることなく、安定して利用者が増えていくと予想しております。

しかし、既存業界の状況が必ずしも参考にならず、今後の需要の顕在化を正確に予測することが困難です。ただし、「旅籠屋」も店舗数の増加にともなって知名度があがり、着実に潜在客の開拓が進んでおります。店舗の業績もおおむね好調かつ安定して推移しており実績データも蓄積されていることから、立地条件や需要を独自に判定・予測することが可能になりつつあります。

(2) 内部環境について

① 支配人の人材確保について

店舗の運営実務の大部分は支配人夫婦に委ねられており、その適性と勤務状況が直接利用者の評価や業績に影響を及ぼします。当初、住み込みという特殊な勤務形態のため要員の確保が容易でないと危惧しましたが、常時ウェブサイト上で希望者を予備登録いただくことにより、店舗数の増加にも対応できる状況となっております。職務適性についても、店舗の支配人として採用する前に代行支配人として試用することにより、実務の習熟と適性判断が行えるシステムとしております。

② 特定人物への依存

当社は、創業以来、代表取締役である甲斐真の経営判断・発想などに大きく依存しており、甲斐真の去就は今後の事業展開の成否に多大な影響を及ぼすと予測されます。

(3) 店舗開発について

① 計画的出店の実現

当初の所要資金が小さい「借上直営方式」による出店は、店舗数を増やすのに適した方式といえます。遊休地のオーナーにとっても、利用の難しかった土地を長期間安定して活用できる手段といえます。

5号店以降、この方式による出店が実現し、引き合いも増えていますが、「出店場所と出店時期」を当社が主体的に決めることが難しく、計画的な出店が困難な面があります。

② 収益性の向上

収益性を向上させるためには建築費のコストダウンや運営業務の効率化が求められます。標準仕様やプランの見直し、用品の一括購入による費用節減などを引き続き進めていく計画です。

③ 法的な制限

素泊まりの郊外型ホテルというと、カップル専用ホテルと誤解される場合があります。旅館業の営業許可を取得する際にもそのようなホテルの排除を目的とした規制が数多くあり、設計プラン上、制約を受けることがあります。これらの法的規制や行政指導への的確な対応、周辺住民の理解を得ることが課題となります。

(4) 財務状況

① 利益配当

当社は店舗の拡大を着実に実行し、早期に収益力の高い経営基盤を確立・強化することを最優先課題とするため、当社は設立以来配当を実施していませんでしたが、昨年11月の資本金の額の減少と剰余金の処分により配当可能利益が生じたこと、今後とも安定して利益を計上できる見通しとなったため、当期より配当を行うべく株主総会に諮り、9月に実施いたしました。

なお、「旅籠屋」を広く知っていただき、その社会的意義を理解していただくために、平成23年6月30日時点の株主の方々に、一定の条件で「レギュラーシーズン無料宿泊券」を進呈させていただいております。

② 取締役会社間の自己取引・利益相反取引

下記の取引は、会社法356条に規定する取締役会社間の自己取引・利益相反取引に該当しています。該当取引については、法令違反にならないよう必要な取締役会又は株主総会で正式な承認手続きをとっております。

区分	氏名	取引の内容	取引金額	摘要
取締役	甲斐 真	本社家賃の支払	1,200千円	従来、甲斐 幹（前取締役）への支払いであったが、同氏の死去で本社オフィスを含む土地建物の2/3を甲斐 真が相続したことにより、月額150千円×2/3を甲斐 真に支払っている。

③ 当社銀行借入れに対する取締役の担保提供

当期の平成23年6月30日現在の金融機関借入金額172,667千円に対して、代表取締役甲斐真が債務保証しております。また、日本政策金融公庫からの借入金（平成23年6月30日現在の残高37,097千円）および東京シティ信用金庫からの借入金（平成23年6月30日現在の残高46,788千円）に対しては、代表取締役甲斐真が所有資産を担保提供しております。

④ ストックオプション行使による影響

平成13年旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき、平成14年9月14日開催の定時株主総会において、当社取締役及び従業員に対して新株予約権方式により、ストックオプションを付与しております。当該制度の内容は以下の通りです。

決議年月日	平成14年 9月14日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 2 従業員 15
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	100
新株予約権の行使時の払込金額(円)	90,000 (注)
新株予約権の行使期間	平成16年10月 1日～ 平成24年 6月30日
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割り当てを受けたものは、権利行使時においても、当社の取締役若しくは従業員の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職等その他正当な理由のある場合はこの限りではない。その他の条件は、本総会および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割り当てを受けたものとの間で締結する「新株予約権付与契約」で定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには取締役会の承認を要する
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注)新株予約権発行後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

なお、株式の分割および時価を下回る価額で新株を発行するときは、次の算式により発行価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行(処分)株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{調整前払込価額}}}{\text{既発行株式数} + \text{分割・新規発行(処分)による増加株式数}}$$

これらのストックオプションが行使されれば、その分当社の株式価値は希薄化します。

⑤ 株式の流通について

当社の株式は、日本証券業協会が定めるグリーンシート銘柄（エマージング区分）として指定をうけております。グリーンシート銘柄は、金融商品取引所上場銘柄と比較すると流動性が低く、株価が激しく変動する可能性があるほか、売却する場合に長期間を要する可能性があります。日本証券業協会に取扱会員もしくは準取扱会員として届出を行っている証券会社（以下「取扱証券会社」）によってのみ取扱いが行われるため、取扱証券会社数が増加すれば当社株式の流通性は高まる可能性があります。一方、全ての取扱証券会社が取扱いを廃止した場合には流通性は失われることとなります。また、取扱証券会社各社において、取扱停止、取扱廃止その他の取扱基準が異なる可能性があるため、投資に際しては取扱会員の証券会社の取扱基準を予め確認する必要があります。

5 【経営上の重要な契約等】

当社は、直営店の敷地について、下記内容の土地及び建物の賃貸借契約を契約しております。

契約先	契約内容	契約期間
個人 A	直営店「日光鬼怒川店」の土地を賃借(栃木県日光市)	自 平成 6年12月22日 至 平成26年12月21日
個人 B	直営店「秋田六郷店」の土地を賃借(秋田県仙北郡六郷町)	自 平成12年 6月 1日 至 平成27年 5月31日 (但し、双方異義がなければ5年間延長継続)
(有)カトレア	直営店「山中湖店」の土地及び建物を賃借(山梨県南都留郡山中湖村)	自 平成12年 6月 1日 至 平成27年 5月31日
尾瀬林業株式会社	直営店「沼田店」の土地及び建物を賃借(群馬県沼田市久屋原町)	自 平成13年 2月20日 至 平成33年 2月19日
個人 C	直営店「水戸大洗店」の土地及び建物を賃借(茨城県水戸市島田町)	自 平成13年 4月10日 至 平成33年 4月 9日
個人 D	直営店「北上店」の土地及び建物を賃借(岩手県北上市北鬼柳)	自 平成14年 3月20日 至 平成34年 3月19日
双葉セメント工業(株)	直営店「仙台亘理店」の土地及び建物を賃借(宮城県亘理郡亘理町)	自 平成16年 4月28日 至 平成36年 4月27日
個人 E	直営店「小淵沢店」の土地及び建物を賃借(山梨県北杜市)	自 平成16年 7月 6日 至 平成36年 7月 5日
(株)厚生冷蔵	直営店「九十九里店」の土地及び建物を賃借(千葉県山武市)	自 平成17年12月 1日 至 平成37年11月30日
(株)リサ・パートナーズ	直営店「東京新木場店」の土地及び建物を賃借(東京都江東区)	自 平成18年 3月15日 至 平成38年 3月14日
(株)リサ・パートナーズ	直営店「千葉勝浦店」の土地及び建物を賃借(千葉県勝浦市)	自 平成19年 2月28日 至 平成39年 2月27日
(株)リサ・パートナーズ	直営店「須賀川店」の土地及び建物を賃借(福島県須賀川市)	自 平成19年 4月17日 至 平成39年 4月16日
(株)リサ・パートナーズ	直営店「いわき勿来店」の土地及び建物を賃借(福島県いわき市)	自 平成19年 7月 4日 至 平成39年 7月 3日
(株)リサ・パートナーズ	直営店「牧之原店」の土地及び建物を賃借(静岡県牧之原市)	自 平成19年 7月18日 至 平成39年 7月17日
(株)ゲオエステート	直営店「金沢内灘店」の土地及び建物を賃借(石川県河北郡内灘町)	自 平成19年 9月12日 至 平成39年 9月11日
(株)リサ・パートナーズ	直営店「韮崎店」の土地及び建物を賃借(山梨県韮崎市)	自 平成19年12月13日 至 平成39年12月12日
(株)リサ・パートナーズ	直営店「土岐店」の土地及び建物を賃借(岐阜県土岐市)	自 平成20年 3月 5日 至 平成40年 3月 4日
(株)リサ・パートナーズ	直営店「伊賀店」の土地及び建物を賃借(三重県伊賀市)	自 平成20年 4月 7日 至 平成40年 4月 6日
西日本高速道路(株)	直営店「壇之浦PA店」の土地及び建物を賃借(山口県下関市)	自 平成20年 4月10日 至 平成40年 4月 9日
(株)リサ・パートナーズ	直営店「松阪東店」の土地及び建物を賃借(三重県多気郡明和町)	自 平成20年 6月 4日 至 平成40年 6月 3日
(株)リサ・パートナーズ	直営店「浜名湖店」の土地及び建物を賃借(静岡県湖西市)	自 平成20年 7月 3日 至 平成40年 7月 2日
東日本高速道路(株)	直営店「佐野SA店」の土地及び建物を賃借(栃木県佐野市)	自 平成20年 7月17日 至 平成40年 7月16日
(有)朝倉E S T A T E	直営店「新潟南店」の土地及び建物を賃借(新潟県新潟市)	自 平成20年 7月10日 至 平成40年 7月 9日
(有)浜比嘉インベストメンツ	直営店「奈良針店」の土地及び建物を賃借(奈良県奈良市)	自 平成21年 3月10日 至 平成41年 3月 9日
(有)浜比嘉インベストメンツ	直営店「彦根店」の土地及び建物を賃借(滋賀県愛知郡)	自 平成21年 4月23日 至 平成41年 4月22日
(有)浜比嘉インベストメンツ	直営店「桑名長島店」の土地及び建物を賃借(三重県桑名市)	自 平成21年 7月11日 至 平成41年 7月10日
(有)浜比嘉インベストメンツ	直営店「寒河江店」の土地及び建物を賃借(山形県寒河江市)	自 平成21年 7月18日 至 平成41年 7月17日
個人 F	直営店「高松店」の土地及び建物を賃借(香川県高松市)	自 平成23年 6月21日 至 平成43年 6月20日
富士急山梨バス(株)	直営店「富士吉田店」の土地及び建物を賃借(山梨県富士吉田市)	自 平成23年 7月 8日 至 平成43年 7月 7日
厚生水産(株)	直営店「袖ヶ浦店」の土地及び建物を賃借(千葉県袖ヶ浦市)	自 平成23年 7月21日 至 平成43年 7月20日

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている企業会計の基準に準拠して作成しております。この財務諸表の作成には、経営者による資産及び負債ならびに収益及び費用の報告数値及び開示に影響を与える見積りを必要とします。経営者は、これらの見積りについて過去の実績や状況を勘案し合理的に判断を行っておりますが、見積り特有の不確実性により、これらの見積りと実際の結果との間に差異が生じる場合があります。

(2) 財政状態の分析

① 資産の状況

当事業年度末における流動資産は175,549千円（前期比4.1%減）となりました。減少の主な内容は、現金及び預金が10,600千円減少したことによるものです。

固定資産合計は946,535千円（前期比4.1%減）となりました。減少の主な内容はリース資産が34,983千円減少したことによるものです。

この結果、当事業年度末における資産合計は1,122,085千円（前期比4.1%減）となりました。

② 負債の状況

当事業年度末における流動負債は177,999千円（前期比9.0%減）となりました。減少の主な内容はリース債務が34,432千円減少したことによるものです。固定負債は723,530千円（前期比5.2%減）となりました。減少の主な内容は長期借入金が45,904千円減少したことによるものです。これにより、負債合計は901,529千円となり、前年度より6.0%減少いたしました。

③ 株主資本の状況

当事業年度末における株主資本合計は、220,555千円（前期比4.7%増）となりました。

減少の主な内容は、当期税引後純利益9,929千円による利益剰余金増加によるものです。

この結果、株主資本比率は19.7%（前事業年度末18.0%）となりました。

(3) キャッシュ・フロー分析

当事業年度のキャッシュ・フローの状況は、営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期純利益が17,278千円となったこと、減価償却費を69,305千円計上したこと等により、91,682千円のプラスとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出15,821千円、貸付金の回収による収入3,100千円等により、22,242千円のマイナスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入れによる収入50,008千円と長期借入金の返済による支出94,210千円、ファイナンス・リース債務の返済による支出35,837千円等により80,039千円のマイナスとなりました。これらの結果、当事業年度末の現金及び現金同等物は138,207千円となり、前年度より10,600千円の減少となりました。

(4) 経営成績の分析

- ・震災の影響により、当期第4四半期は前年同期に比べ稼働率は上回りましたが、売上高、経常利益は下回る結果となりました。「仙台亙理店」「いわき勿来店」「北上店」「須賀川店」など被災地に近い店舗は復興需要により稼働率が急増していますが、大部分がビジネス利用であるため、売上高・経常利益の増加は比例していません。また、栃木県・千葉県・東京都内の店舗は、観光客の減少により、業績が大きく低下しています。
- ・こうしたことから、通期でも前期に比べ、稼働率（+2.3p）売上高（+2.5%）は上回りましたが、経常利益（▲10.3%）は減益となりました。観光需要の落ち込みにより、業界全般の低迷が顕著なようですが、当社の場合、観光・ビジネスを問わない汎用施設であるため、比較的堅調と言えるものの、影響は明らかです。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当期中に実施いたしました設備投資の総額は25,399千円と少額にとどまりましたが、これは新規店舗の備品等の取得および既存店の改修・備品更新によるものです。

2 【主要な設備の状況】

(平成23年6月30日現在)

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)							従業員数
		建物	構築物	車両運搬具	工具器具備品	土地(面積㎡)	リース資産	合計	
本 社 (東京都台東区)	オフィス	2,698	—	188	923	—	—	3,810	18名
日光鬼怒川店 (栃木県日光市)	ホテル客室19室	42,560	209	—	1,432	—	—	44,201	2名
那須店 (栃木県那須郡那須町)	ホテル客室12室	41,080	225	—	924	9,193 (1,514)	—	51,423	2名
秋田六郷店 (秋田県仙北郡美郷町)	ホテル客室12室	10,604	—	15	696	—	—	11,317	2名
山中湖店 (山梨県南都留郡山中湖村)	ホテル客室14室	3,326	175	—	1,239	—	—	4,741	2名
沼田店 (群馬県沼田市)	ホテル客室12室	4,160	280	—	765	—	—	5,206	2名
水戸大洗店 (茨城県水戸市)	ホテル客室12室	5,687	520	—	667	—	—	6,875	2名
北上店 (岩手県北上市)	ホテル客室12室	3,197	585	—	838	—	—	4,621	2名
仙台亘理店 (宮城県亘理郡亘理町)	ホテル客室12室	2,651	—	—	774	—	—	3,425	2名
小淵沢店 (山梨県北杜市)	ホテル客室12室	257	803	—	642	—	—	1,704	2名
前橋南店 (群馬県前橋市)	ホテル客室12室	—	803	—	1,365	—	—	2,168	2名
九十九里店 (千葉県山武市)	ホテル客室12室	—	908	—	1,441	—	—	2,349	2名
東京新木場店 (東京都江東区)	ホテル客室23室	4,640	—	—	3,454	—	—	8,094	2名
千葉勝浦店 (千葉県勝浦市)	ホテル客室12室	2,374	—	—	1,894	—	—	4,269	2名
軽井沢店 (長野県北佐久郡軽井沢町)	ホテル客室13室	910	—	—	2,047	—	—	2,957	2名
須賀川店 (福島県須賀川市)	ホテル客室12室	881	511	—	1,933	—	—	3,326	2名
いわき勿来店 (福島県いわき市)	ホテル客室14室	1,971	—	—	2,064	—	—	4,036	2名
牧之原店 (静岡県牧之原市)	ホテル客室12室	1,162	—	—	2,027	—	—	3,190	2名
金沢内灘店 (石川県河北郡内灘町)	ホテル客室12室	1,245	—	—	2,131	—	—	3,377	2名
韮崎店 (山梨県韮崎市)	ホテル客室12室	—	948	—	2,339	—	—	3,287	2名
土岐店 (岐阜県土岐市)	ホテル客室12室	935	207	—	2,212	—	—	3,355	2名
伊賀店 (三重県伊賀市)	ホテル客室14室	1,018	—	—	2,576	—	—	3,595	2名
壇之浦P A店 (山口県下関市)	ホテル客室14室	1,933	—	—	2,842	—	—	4,775	2名
松阪東店 (三重県多気郡)	ホテル客室12室	951	—	—	2,449	—	—	3,401	2名
浜名湖店 (静岡県湖西市)	ホテル客室15室	2,022	—	—	2,988	—	96,883	101,895	2名
佐野S A店 (栃木県佐野市)	ホテル客室14室	1,114	—	—	2,767	—	81,636	85,518	2名
新潟南店 (新潟県新潟市)	ホテル客室14室	915	1,093	—	2,932	—	81,923	86,864	2名
奈良針店 (奈良県奈良市)	ホテル客室14室	2,474	—	—	3,293	—	91,028	96,796	2名
彦根店 (滋賀県愛知郡)	ホテル客室14室	1,005	—	—	3,438	—	91,693	96,137	2名
桑名長島店(三重県桑名氏)	ホテル客室14室	970	—	—	3,633	—	90,678	95,282	2名
寒河江店 (山形県寒河江市)	ホテル客室14室	970	—	—	3,641	—	77,533	82,145	2名
合計		143,723	7,274	203	62,379	9,193 (1,514)	611,378	834,154	78名

(注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。

2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3 上記の他、主要な設備のうち他の者から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	年間賃借料(千円)	契 約 期 間
日光鬼怒川店 (栃木県日光市)	土地	1,496	自 平成 6年12月22日 至 平成26年12月21日
秋田六郷店 (秋田県仙北郡美郷町)	土地	600	自 平成12年 6月 1日 至 平成27年 5月31日
山中湖店 (山梨県南都留郡山中湖村)	土地、建物	9,240	自 平成17年 7月 1日 至 平成37年 6月30日
沼田店 (群馬県沼田市)	土地、建物	8,640	自 平成13年 2月20日 至 平成33年 2月19日
水戸大洗店 (茨城県水戸市)	土地、建物	7,920	自 平成13年 4月10日 至 平成33年 4月 9日
北上店 (岩手県北上市)	土地、建物	7,920	自 平成14年 3月20日 至 平成34年 3月19日
仙台亘理店 (宮城県亘理郡)	土地、建物	7,920	自 平成16年 4月28日 至 平成36年 4月27日
小淵沢店 (山梨県北杜市)	土地、建物	7,920	自 平成16年 7月 6日 至 平成36年 7月 5日
九十九里店 (千葉県山武市)	土地、建物	7,920	自 平成17年12月 1日 至 平成37年11月30日
東京新木場店 (東京都江東区)	土地、建物	37,740	自 平成18年 3月15日 至 平成38年 3月14日
千葉勝浦店 (千葉県勝浦市)	土地、建物	8,205	自 平成19年 2月28日 至 平成39年 2月27日
須賀川店 (福島県須賀川市)	土地、建物	7,900	自 平成19年 4月17日 至 平成39年 4月16日
いわき勿来店 (福島県いわき市)	土地、建物	8,840	自 平成19年 7月 4日 至 平成39年 7月 3日
牧之原店 (静岡県牧之原市)	土地、建物	7,877	自 平成19年 7月18日 至 平成39年 7月17日
金沢内灘店 (石川県河北郡)	土地、建物	7,920	自 平成19年 9月12日 至 平成39年 9月11日
葦崎店 (山形県葦崎町)	土地、建物	6,898	自 平成19年12月13日 至 平成39年12月12日
土岐店 (岐阜県土岐市)	土地、建物	8,688	自 平成20年 3月 5日 至 平成40年 3月 4日
伊賀店 (三重県伊賀市)	土地、建物	8,141	自 平成20年 4月 7日 至 平成40年 4月 6日
壇之浦P A店 (山口県下関市)	土地、建物	9,829	自 平成20年 4月10日 至 平成40年 4月 9日
松阪東店 (三重県多気郡明和町)	土地、建物	7,579	自 平成20年 6月 4日 至 平成40年 6月 3日
浜名湖店 (静岡県浜名郡新居町)	土地、建物	11,761	自 平成20年 7月 3日 至 平成40年 7月 2日
佐野S A店 (栃木県佐野市)	土地、建物	11,737	自 平成20年 7月17日 至 平成40年 7月16日
新潟南店 (新潟県新潟市)	土地、建物	9,139	自 平成20年 7月10日 至 平成40年 7月 9日
奈良針店 (奈良県奈良市)	土地、建物	8,522	自 平成21年 3月10日 至 平成41年 3月 9日
彦根店(滋賀県愛知郡)	土地、建物	9,875	自 平成21年 4月23日 至 平成41年 4月22日
桑名長島店(滋賀県愛知郡)	土地、建物	9,317	自 平成21年 7月11日 至 平成41年 7月10日
寒河江店 (山形県寒河江市)	土地、建物	7,940	自 平成21年 7月18日 至 平成41年 7月17日

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1)重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2)重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,980
計	24,980

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成23年 6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年9月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,245	6,245	非上場・非登録	単元株制度を採用しておりません。
計	6,245	6,245	—	—

(注) 普通株式は完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 新株予約権

株主総会の特別決議日(平成14年 9月14日)		
	事業年度末現在 (平成23年 6月30日)	提出日の前月末現在 (平成23年 8月31日)
新株予約権の数(個)	100 (注)1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	100	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	90,000 (注)2	同左
新株予約権の行使期間	平成16年10月 1日～ 平成24年 6月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合 の株式の発行価額及び資本組入額(円)	—	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割り当てを受けたものは、権利行使時においても、当社の取締役若しくは従業員の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職等その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件は、本総会および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割り当てを受けたものとの間で締結する「新株予約権付与契約」で定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには取締役会の承認を要する	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—	—

(注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

2 新株予約権発行後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

なお、株式の分割および時価を下回る価額で新株を発行するときは、次の算式により発行価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行(処分)株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{調整前払込価額}}}{\text{既発行株式数} + \text{分割・新規発行(処分)による増加株式数}}$$

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】 該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】 該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	利益剰余金 増減額(千円)	利益剰余金 残高(千円)
平成22年 11月18日	—	6,245	△231,000	100,000	189,289	—

(6) 【所有者別状況】 平成23年 6月30日現在

区分	株式の状況							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び地 方公共団体	金融 機関	金融商品 取引業者	その他 の法人	外国法人等		個人 その他		計
株主数(人)	—	—	1	8	—	—	316	325	—
所有株式数(株)	—	—	31	758	—	—	5,456	6,245	—
所有株式数の割合(%)	—	—	0.50	12.14	—	—	87.37	100.00	—

(7) 【大株主の状況】 平成23年 6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
甲 斐 真	東京都台東区	1,911	30.60
甲 斐 美沙子	東京都台東区	700	11.21
合同会社アール・ピー・ ディー・ファイブ	東京都港区赤坂1-11-44	625	10.01
鍵 山 文厚	埼玉県春日部市	260	4.16
三 田 昌宏	兵庫県西宮市	240	3.84
甲 斐 弘子	東京都台東区	235	3.76
坂 本 充男	和歌山県東牟婁郡	140	2.24
藤 井 明	神奈川県横浜市	125	2.00
平 石 浩	埼玉県上尾市	103	1.65
(株) 実 栄	東京都中央区八丁堀4- 8-10	68	1.09
計		4,407	70.57

(注) 前事業年度末現在主要株主であった㈱リサ・パートナーズは、当事業年度では主要株主ではなくなり、合同会社アール・ピー・ディー・ファイブが新たに主要株主となりました。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成23年 6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,245	6,245	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	6,245	—	—
総株主の議決権	—	6,245	—

② 【自己株式等】

平成23年 6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

(9) 【ストックオプション制度の内容】

① 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき、平成14年9月14日開催の定時株主総会において、当社取締役及び従業員に対して新株予約権方式により、ストックオプションを付与しております。当該制度の内容は以下の通りです。

決議年月日	平成14年 9月14日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役、従業員 17
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社の配当政策に関する基本的な考え方は、会社の成長と内部留保の充実に努めるとともに株主の皆様に適正な配当を行うこととあります。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当社は店舗の拡大を着実に実行し、早期に収益力の高い経営基盤を確立・強化することを最優先課題とするため、当社は設立以来配当を実施していませんでしたが、昨年11月の資本金の額の減少と剰余金の処分により配当可能利益が生じたこと、今後とも安定して利益を計上できる見通しとなったため、当期より配当を行うべく株主総会に諮り、9月に実施いたしております。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定めております。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期
決算年月	平成19年6月	平成20年6月	平成21年6月	平成22年6月	平成23年6月
最高(円)	240,000	205,000	120,000	105,000	70,000
最低(円)	170,000	120,000	110,000	50,000	45,000

(注) 最高・最低株価は、日本証券業協会の「グリーンシート銘柄及びフェニックス銘柄に関する規則」に基づくグリーンシート銘柄としての売買価格です。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

回次	平成23年1月	2月	3月	4月	5月	6月
最高(円)	70,000	70,000	60,000	49,000	—	68,000
最低(円)	70,000	70,000	50,000	45,000	—	68,000

(注) 最高・最低株価は、日本証券業協会の「グリーンシート銘柄及びフェニックス銘柄に関する規則」に基づくグリーンシート銘柄としての売買価格です。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役	社長	甲斐 真	昭和27年 3月22日生	昭和53年 4月 平成 2年 9月 平成 6年 7月	日本ホームズ株式会社 入社 株式会社ATC入社 当社設立代表取締役社長（現任）	注1	1,911
専務取締役		鍵山 文厚	昭和28年 7月 7日生	昭和51年 4月 昭和61年 8月 平成10年 7月 平成11年 8月	株式会社日本ロッカービス入社 株式会社シャルレ入社 当社入社 「鬼怒川店」 支配人 当社取締役就任（現任）	注1	260
取締役	店舗開発部長	森 弘	昭和49年 3月16日生	平成 8年 4月 平成12年 6月 平成16年 6月 平成21年 9月	朝日火災海上保険株式会社 入社 株式会社マイロード 設立 当社入社、店舗開発部長（現任） 当社取締役就任（現任）	注1	3
取締役	店舗管理部長	小島 裕生	昭和41年 9月 3日生	平成元年 4月 平成 2年 4月 平成 3年 9月 平成 6年 7月 平成 7年 3月 平成18年 8月 平成21年 9月	株式会社ザ・トラベル商会 入社 小里機材株式会社 入社 有限会社ろくさん舎 入社 株式会社現代旅行研究所 入社 学校法人東京観光専門学校 入校 当社入社、店舗管理部長（現任） 当社取締役就任（現任）	注1	—
監査役	非常勤	豊島 健治	昭和24年 4月18日生	昭和48年 4月 平成 7年 5月 平成 8年 2月 平成16年 9月	千葉興業銀行入社 同行退社 株式会社エス・エム・シー代表取締役(現任) 当社監査役就任（現任）	注2	3
計							2,177

(注) 1 取締役の任期は平成23年6月期に係る株主総会終結の時から平成25年6月期に係る定時株主総会終結の時
までであります。

(注) 2 監査役の任期は平成20年6月期に係る株主総会終結の時から平成24年6月期に係る定時株主総会終結の時
までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

①コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、公正かつ効率的な経営に取り組むにあたり、コーポレート・ガバナンスが重要な課題であると認識しております。そのため、経営の意思決定の内容及び過程を明確にし、利害関係者の意思や利益を適切に反映し株主から信頼される経営を目指しております。

②コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

当社の取締役は、平成23年6月末現在4名で構成し、会社法で定められた取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務遂行の状況を逐次監督しております。

また、情報開示体制については、監査法人の指導を随時受けながら、経営情報の迅速な開示を目的として、株主及び投資家に対して決算データ等の情報開示に努めております。

③役員報酬の内容

当事業年度における当社の取締役および監査役に対する役員報酬、並びに公認会計士に対する監査報酬は以下のとおりであります。

役員報酬

取締役を支払った報酬	29,300千円	監査役を支払った報酬	840千円
------------	----------	------------	-------

④取締役の定数

当社の取締役は5名以内とする旨定款に定めております。

⑤取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、累積投票によらない旨定款に定めております。

⑥取締役の責任免除

当社は、会社法第423条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって、免除することができる旨定款に定めております。

⑦株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑧中間配当の決定機関

当社は、会社法第454条第5項に定める中間配当の事項について、取締役会の決議により毎年12月31日を基準日として行うことができる旨定款に定めております。これは、中間配当を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

①【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
1,800	—	1,800	—

②【その他重要な報酬の内容】

該当ありません。

③【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査報酬の内容】

該当ありません。

④【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、規模・特性・監査日数等を勘案した上定めております。

第5 【経理の状況】

1 【計算書類等】

1 当社の貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表及び附属明細書については、会社法施行規則(平成18年2月7日 法務省令第12号)に基づいて作成しております。(以下、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表及び附属明細書を「計算書類等」と表現しております。)

計算書類等その他の事項の金額については、千円未満の端数を切捨てて記載しております。なお、積極的な情報開示の観点から、一部については金融商品取引法に基づいた形式での開示を行っております。

2 当社の第16期(平成21年7月1日から平成22年6月30日まで)及び第17期(平成22年7月1日から平成23年6月30日まで)の計算書類等については、会社法第436条第2項第1号の規定に準じて、監査法人よつば総合事務所の監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

区分	注記番号	第16期 (平成22年6月30日現在)		第17期 (平成23年6月30日現在)	
		金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
(資産の部)					
流動資産					
現金及び預金		148,807		138,207	
売掛金		859		1,090	
貯蔵品		8,027		9,032	
前払費用		18,298		20,267	
その他流動資産		7,135		6,951	
流動資産合計		183,128	15.7	175,549	15.6
固定資産					
有形固定資産	※1				
建物	※2	154,242		143,723	
構築物		7,807		7,274	
車両運搬具		507		203	
工具器具備品		71,054		62,379	
土地	※2	9,193		9,193	
建設仮勘定		—		12,209	
リース資産		646,361		611,378	
有形固定資産合計		889,168	76.0	846,363	75.4
無形固定資産					
ソフトウェア		1,787		1,496	
電話加入権		665		665	
無形固定資産合計		2,453	0.2	2,162	0.2
投資その他の資産					
出資金		1,200		1,200	
長期貸付金		21,790		14,000	
長期前払費用		2,866		2,466	
差入保証金		70,765		78,211	
その他		466		2,132	
貸倒引当金		△1,790		—	
投資その他の資産合計		95,298	8.1	98,010	8.7
固定資産合計		986,920	84.3	946,535	84.4
資産合計		1,170,048	100.0	1,122,085	100.0
(負債の部)					
流動負債					
短期借入金		—		50,008	

1年以内返済予定長期借入金	※2		94,210			45,904	
リース債務			64,203			29,771	
未払金			4,317			8,962	
未払費用			16,118			15,822	
未払法人税等			9,034			7,349	
未払消費税等			4,811			15,373	
前受金			659			904	
預り金			1,949			1,583	
賞与引当金			193			181	
役員賞与引当金			—			1,800	
その他流動負債			—			337	
流動負債合計			195,497	16.7		177,999	15.8
固定負債							
長期借入金	※2		122,659			76,755	
リース債務			640,765			646,775	
固定負債合計			763,425	65.2		723,530	64.5
負債合計			958,922	82.0		901,529	80.3
(純資産の部)							
株主資本							
資本金			331,000	28.3		100,000	8.9
資本剰余金							
(1) 資本準備金			68,916			68,916	
(2) その他資本剰余金			—			41,710	
資本剰余金合計			68,916	5.9		110,626	9.9
利益剰余金							
(1) その他利益剰余金							
繰越利益剰余金			△189,289			9,929	
利益剰余金合計			△189,289	△16.2		9,929	0.9
株主資本合計			210,626	18.0		220,555	19.7
新株予約権							
新株引受権			500	0.0		—	—
純資産合計			211,126	18.0		220,555	19.7
負債・純資産合計			1,170,048	100.0		1,122,085	100.0

(2) 【損益計算書】

区分	注記番号	第16期 (自 平成21年7月 1日 至 平成22年6月30日)		第17期 (自 平成22年7月 1日 至 平成23年6月30日)	
		金額(千円)	百分比(%)	金額(千円)	百分比(%)
I 売上高		797,356	100.0	817,329	100.0
II 売上原価		683,805	85.8	695,779	85.1
売上総利益		113,551	14.2	121,549	14.9
III 販売費及び一般管理費		72,715	9.1	81,310	10.0
営業利益		40,835	5.1	40,239	4.9
IV 営業外利益					
受取利息及び配当金		37		31	
その他		2,505	0.3	2,662	0.3
V 営業外費用					
支払利息		23,724		26,283	
その他		1,128	3.1	29	3.2
経常利益		18,524	2.3	16,621	2.0
VI 特別利益					
過年度修正益		—		657	0.1
VI 特別損失					
税引前当期純利益		18,524	2.3	17,278	2.1
法人税、住民税及び事業税		7,297	0.9	7,349	0.9
当期純利益		11,226	1.4	9,929	1.2

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成21年7月1日 至 平成22年6月30日）

（単位：千円）

項目	株主資本				新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計		
		資本準備金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
平成21年6月30日残高	331,000	68,916	△200,516	199,399	500	199,899
事業年度中の変動額						
当期純利益	—	—	11,226	11,226	—	11,226
事業年度中の変動額合計	—	—	11,226	11,226	—	11,226
平成22年6月30日残高	331,000	68,916	△189,289	210,626	500	211,126

当事業年度（自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日）

（単位：千円）

項目	株主資本				株主資本 合計	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		新株 引受権	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他利益剰余金			
				繰越利益剰余金			
平成22年6月30日残高	331,000	68,916	—	△189,289	210,626	500	211,126
事業年度中の変動額							
資本金の額の減少	△231,000	—	231,000	—	—	—	—
その他資本剰余金の処分	—	—	△189,289	189,289	—	—	—
当期純利益	—	—	—	9,929	9,929	—	9,929
それ以外の変動額	—	—	—	—	—	△500	△500
事業年度中の変動額合計	△231,000	—	41,710	199,218	9,929	△500	9,429
平成23年6月30日残高	100,000	68,916	41,710	9,929	220,555	—	220,555

(4) 個別注記事項

①重要な会計方針に係る事項に関する注記

第16期 (自 平成21年7月 1日 至 平成22年6月30日)	第17期 (自平成22年7月 1日 至 平成23年6月30日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法 その他有価証券 時価のある有価証券……移動平均法による原価法	1. 有価証券の評価基準及び評価方法 同左
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法 貯蔵品……移動平均法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)	2. たな卸資産の評価基準及び評価方法 同左
3. 有形固定資産の減価償却方法……… 平成19年3月31日以前に取得したもの …法人税法に規定する旧定額法を採用しております。 平成19年4月1日以降に取得したもの …法人税法に規定する定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下の通り。 建物…17～18年、構築物…15～20年 車両運搬具…4～6年、工具器具備品…3～8年 リース資産 …リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法 を採用しております。	3. 有形固定資産の減価償却方法 同左
4. 無形固定資産の減価償却方法……… 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。	4. 無形固定資産の減価償却方法 同左
5. 長期前払費用の処理方法……… 定額法を採用しております。	5. 長期前払費用の処理方法 同左
6. 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。	6. 同左

7. ①記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。
 ②記載金額が「0」は千円未満であることを示しております。
 ③記載金額が「-」は当該金額がないことを示しております。

7. 同左

②会計方針の変更に関する注記

第16期 (自平成21年7月1日至平成22年6月30日)	第17期 (自平成22年7月1日至平成23年6月30日)
-	<p>1. 会計方針の変更 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 当社が使用している店舗等の一部については、賃貸借契約により、退去時または契約解除時における原状回復費用等に係わる債務を有しておりますが、当該債務に関する賃借資産の使用期間が明確でなく、現在のところ解除等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該資産に見合う資産除去債務を計上しておりません。</p>

③貸借対照表に関する注記

第16期 (平成22年6月30日現在)	第17期 (平成23年6月30日現在)														
※1 有形固定資産の減価償却累計額 381,441千円	※1 有形固定資産の減価償却累計額 449,646千円														
※2 担保に供している資産	※2 担保に供している資産														
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">56,642千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">9,193千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">65,836千円</td> </tr> </table>	建物	56,642千円	土地	9,193千円	計	65,836千円	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">51,684千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">9,193千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">60,877千円</td> </tr> </table>	建物	51,684千円	土地	9,193千円	計	60,877千円		
建物	56,642千円														
土地	9,193千円														
計	65,836千円														
建物	51,684千円														
土地	9,193千円														
計	60,877千円														
上記に対応する債務	上記に対応する債務														
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年以内返済予定</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">38,688千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">33,880千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">72,568千円</td> </tr> </table>	1年以内返済予定		長期借入金	38,688千円	長期借入金	33,880千円	計	72,568千円	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年以内返済予定</td> <td style="text-align: right;">8,652千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">28,445千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">37,097千円</td> </tr> </table>	1年以内返済予定	8,652千円	長期借入金	28,445千円	計	37,097千円
1年以内返済予定															
長期借入金	38,688千円														
長期借入金	33,880千円														
計	72,568千円														
1年以内返済予定	8,652千円														
長期借入金	28,445千円														
計	37,097千円														

④損益計算書に関する注記

第16期 (自平成21年7月1日至平成22年6月30日)	第17期 (自平成22年7月1日至平成23年6月30日)
-	-

⑤株主資本等変動計算書に関する注記

前事業年度(自平成21年7月1日至平成22年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前事業年度末株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	6,245	-	-	6,245	
合計	6,245	-	-	6,245	

2. 新株予約権に関する事項

新株予約権 の内訳	新株予約権 の目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業年度末 残高(千円)	摘要
		前事業年度末	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末		
平成11年12月17日 付与の新株引受権	普通株式	1,000	-	1,000	-	-	(注1)

平成13年9月14日 付与の新株予約権	普通株式	20	—	—	20	—	
平成14年9月14日 付与の新株予約権	普通株式	100	—	—	100	—	
合計		1,120	—	1,000	120	—	

(注) 目的となる株式の数の減少理由は、行使期間が終了したことによるものであります。

3. 配当に関する事項

配当は実施しておりません。

当事業年度(自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前事業年度末株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	6,245	—	—	6,245	
合計	6,245	—	—	6,245	

2. 新株予約権に関する事項

新株予約権 の内訳	新株予約権 の目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業年度末 残高(千円)	摘要
		前事業年度末	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末		
平成13年9月14日 付与の新株予約権	普通株式	20	—	20	—	—	
平成14年9月14日 付与の新株予約権	普通株式	100	—	—	100	—	
合計		120	—	20	100	—	

(注) 目的となる株式の数の減少理由は、行使期間が終了したことによるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

当事業年度において、配当は実施しておりません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年9月9日 定時株主総会	普通株式	6,245	利益剰余金	1,000	平成23年 6月30日	平成23年 9月12日

⑥税効果会計に関する注記

前事業年度(自 平成21年7月1日 至 平成22年6月30日)

繰延税金資産の発生の主な原因は、固定資産の減損であり、評価性引当金を控除しております。

当事業年度(自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日)

繰延税金資産の発生の主な原因は、固定資産の減損であり、評価性引当金を控除しております。

⑦リースにより使用する固定資産に関する注記

第16期 (自 平成21年7月 1日至 平成22年6月30日)	第17期 (自 平成22年7月 1日至 平成23年6月30日)																																																												
<p>1 所有権移転外ファイナンス・リース取引（リース取引会計基準の改正適用初年度開始前の取引）</p> <p>(1) リース資産の内容 有形固定資産 主として、建物であります。</p> <p>(2) リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「3 固定資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年6月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>① リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%; text-align: center;">建物</th> <th style="width: 45%; text-align: center;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取得価額相当額</td> <td style="text-align: right;">2,114,864千円</td> <td style="text-align: right;">2,114,864千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却累計額相当額</td> <td style="text-align: right;">463,900千円</td> <td style="text-align: right;">463,900千円</td> </tr> <tr> <td>期末残高相当額</td> <td style="text-align: right;">1,650,963千円</td> <td style="text-align: right;">1,650,963千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">1年以内</td> <td style="width: 45%; text-align: right;">140,747千円</td> <td style="width: 45%;"></td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">2,056,741千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">2,197,488千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">支払リース料</td> <td style="width: 45%; text-align: right;">140,747千円</td> <td style="width: 45%;"></td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">105,743千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">56,362千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>④ 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 減価償却費の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法に</p>		建物	合計	取得価額相当額	2,114,864千円	2,114,864千円	減価償却累計額相当額	463,900千円	463,900千円	期末残高相当額	1,650,963千円	1,650,963千円	1年以内	140,747千円		1年超	2,056,741千円		合計	2,197,488千円		支払リース料	140,747千円		減価償却費相当額	105,743千円		支払利息相当額	56,362千円		<p>1 所有権移転外ファイナンス・リース取引（リース取引会計基準の改正適用初年度開始前の取引）</p> <p>(1) リース資産の内容 有形固定資産 主として、建物であります。</p> <p>(2) リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「3 固定資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年6月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>① リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%; text-align: center;">建物</th> <th style="width: 45%; text-align: center;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取得価額相当額</td> <td style="text-align: right;">2,114,864千円</td> <td style="text-align: right;">2,114,864千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却累計額相当額</td> <td style="text-align: right;">569,643千円</td> <td style="text-align: right;">569,643千円</td> </tr> <tr> <td>期末残高相当額</td> <td style="text-align: right;">1,545,220千円</td> <td style="text-align: right;">1,545,220千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">1年以内</td> <td style="width: 45%; text-align: right;">140,747千円</td> <td style="width: 45%;"></td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">1,915,993千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">2,056,741千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">支払リース料</td> <td style="width: 45%; text-align: right;">140,747千円</td> <td style="width: 45%;"></td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">105,743千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">51,151千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>④ 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 減価償却費の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、</p>		建物	合計	取得価額相当額	2,114,864千円	2,114,864千円	減価償却累計額相当額	569,643千円	569,643千円	期末残高相当額	1,545,220千円	1,545,220千円	1年以内	140,747千円		1年超	1,915,993千円		合計	2,056,741千円		支払リース料	140,747千円		減価償却費相当額	105,743千円		支払利息相当額	51,151千円	
	建物	合計																																																											
取得価額相当額	2,114,864千円	2,114,864千円																																																											
減価償却累計額相当額	463,900千円	463,900千円																																																											
期末残高相当額	1,650,963千円	1,650,963千円																																																											
1年以内	140,747千円																																																												
1年超	2,056,741千円																																																												
合計	2,197,488千円																																																												
支払リース料	140,747千円																																																												
減価償却費相当額	105,743千円																																																												
支払利息相当額	56,362千円																																																												
	建物	合計																																																											
取得価額相当額	2,114,864千円	2,114,864千円																																																											
減価償却累計額相当額	569,643千円	569,643千円																																																											
期末残高相当額	1,545,220千円	1,545,220千円																																																											
1年以内	140,747千円																																																												
1年超	1,915,993千円																																																												
合計	2,056,741千円																																																												
支払リース料	140,747千円																																																												
減価償却費相当額	105,743千円																																																												
支払利息相当額	51,151千円																																																												
<p>2 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">1年以内</td> <td style="width: 45%; text-align: right;">79,625千円</td> <td style="width: 45%;"></td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">1,181,723千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	1年以内	79,625千円		1年超	1,181,723千円		<p>2 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">1年以内</td> <td style="width: 45%; text-align: right;">87,045千円</td> <td style="width: 45%;"></td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">1,199,319千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	1年以内	87,045千円		1年超	1,199,319千円																																																	
1年以内	79,625千円																																																												
1年超	1,181,723千円																																																												
1年以内	87,045千円																																																												
1年超	1,199,319千円																																																												

⑧金融商品関係に関する注記

前事業年度(自 平成21年7月1日 至 平成22年6月30日)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。長期貸付金及び差入保証金は、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握を図っております。借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に店舗出店のために必要となるものです。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年6月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
① 現金及び預金	148,807	148,807	—
② 長期貸付金	21,790		
貸倒引当金(※1)	△ 1,790		
	20,000	19,387	△ 612
③ 長期借入金(※2)	216,869	213,056	△ 3,812
④ リース債務(※2)	704,969	717,418	12,449

(※1) 貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(※2) 長期借入金及びリース債務には一年以内の返済予定額を含めております。

(注1)金融商品の時価の算定方法

①現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

②長期貸付金

長期貸付金の時価は、回収可能性を反映した回収見込額を回収見込期間に対応する国債の利回り等適切な指標で割り引いた現在価値により算定しております。

③長期借入金及び④リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	貸借対照表価額 (千円)
差入保証金	70,765

返済期日を明確に把握できないため、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価の開示の対象とはしておりません。

当事業年度(自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。長期貸付金及び差入保証金は、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握を図っております。借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に店舗出店のために必要となるものです。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年6月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
① 現金及び預金	138,207	138,207	—
② 長期貸付金	14,000	13,805	△ 195
③ 未払消費税等	15,373	15,373	—
④ 未払費用	15,822	15,822	—
⑤ 短期借入金	50,008	50,008	—
⑥ 長期借入金(※1)	122,659	123,136	477
⑦ リース債務(※1)	676,546	697,333	20,786

(※1) 長期借入金及びリース債務には一年以内の返済予定額を含めております。

(注1)金融商品の時価の算定方法

①現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

②長期貸付金

長期貸付金の時価は、回収可能性を反映した回収見込額を回収見込期間に対応する国債の利回り等適切な指標で割り引いた現在価値により算定しております。

③未払消費税等④未払費用及び⑤短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。

⑥長期借入金及び⑦リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	貸借対照表価額 (千円)
差入保証金	78,211

返済期日を明確に把握できないため、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが

極めて困難と認められることから、時価の開示の対象とはしておりません。

⑨貸貸等不動産に関する注記

該当事項はありません。

⑩関連当事者との取引に関する注記

前事業年度（自 平成21年7月1日 至 平成22年6月30日）

属性	氏名	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引の種類別の 取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
			役員 の 兼任等	事業上 の 関係				
取締役かつ 主要株主	甲斐 真	被所有 直接 30.60	—	—	借入金の返済	400	1年以内返済予定 長期借入金	—
					債務被保証	216,869	長期借入金	—
					本社家賃の支払 不動産の管理受託	1,200 210	地代家賃 売上高	—
主要株主	(株)リサ・ パートナーズ	被所有 直接 10.01	—	所有不動産 の賃借	リース資産の取得 支払リース料 未経過リース料	186,902 113,839 1,963,275	リース資産 リース債務 前払費用	473,181 514,298 10,082

取引条件及び取引条件の決定方針等

債務被保証については、借入債務に基づく保証額の期末残高を記載しております。また、債務被保証について、保証料は支払っておりません。

当事業年度（自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日）

属性	氏名	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引の種類別の 取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
			役員 の 兼任等	事業上 の 関係				
取締役かつ 主要株主	甲斐 真	被所有 直接 30.60	—	—	債務被保証	172,667		—
					本社家賃の支払	1,200	地代家賃 売上高	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

債務被保証については、借入債務に基づく保証額の期末残高を記載しております。また、債務被保証について、保証料は支払っておりません。

⑪1株当たり情報に関する注記

項目	第16期	第17期
1株当たり純資産額	33,727円20銭	35,317円17銭
1株当たり当期純利益	1,797円74銭	1,589円97銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—円—銭	—円—銭

(注)潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第16期（自 平成21年7月1日 至 平成22年6月30日）	第17期（自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日）
1株当たり当期純利益金額	1,797円74銭	1,589円97銭
当期純利益(千円)	11,226	9,929
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	11,226	9,929
普通株式の期中平均株式数(株)	6,245	6,245

⑫重要な後発事象に関する注記

第16期 (自 平成21年7月 1日 至 平成22年6月30日)	第17期 (自 平成22年7月 1日 至 平成23年6月30日)
<p>平成22年8月20日開催の取締役会において、平成22年9月17日開催予定の定時株主総会に「資本金の額の減少ならびに剰余金処分の件」を付議することを決議いたしました。</p> <p>(1) 資本金の額の減少ならびに剰余金処分の目的 配当を含む今後の資本政策上の柔軟性および機動性を確保するため、資本金の額を減少して「その他資本剰余金」に振り替え、さらにその一部によって「繰越利益剰余金」の欠損を補填するものです。なお本件は、発行済株式総数を変更しないため、株主の皆様のおの所有株式数に影響を与えるものではありません。</p> <p>(2) 減少する資本金の額 現在の資本金の額331,000,000円のうち231,000,000円を減少し、資本金の額を100,000,000円とします。</p> <p>(3) 剰余金の処分 資本金の減少により生じる「その他資本剰余金」の一部189,289,869円をもって、「繰越利益剰余金」の欠損補填を行い、これによって当社の欠損金（繰越利益剰余金の残高▲189,289,869円）が解消されます。</p> <p>(4) 日程</p> <p>①. 取締役会決議日 平成22年8月20日 ②. 定時株主総会決議日 平成22年9月17日（予定） ③. 債権者異議申述催告公告日 平成22年9月21日（予定） ④. 債権者異議申述催告最終期日 平成22年10月21日（予定） ⑤. 効力発生日 平成22年10月22日（予定）</p>	—

⑬その他の注記

該当事項はありません。

(5) 【附属明細書】

① 有形固定資産及び無形固定資産の明細

(単位：千円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	当期償却額	期末帳簿価額	減価償却累計額	期末取得原価
有形固定資産	建物	154,242	6,263	—	16,783	143,723	256,998	400,721
	構築物	7,807	—	—	533	7,274	3,356	10,631
	車両運搬具	507	—	—	303	203	4,884	5,087
	工具器具備品	71,054	6,926	—	15,601	62,379	96,110	158,490
	土地	9,193	—	—	—	9,193	—	9,193
	建設仮勘定	—	12,209	—	—	12,209	—	12,209
	リース資産	646,361	—	—	34,983	611,378	88,296	699,674
	計	889,168	25,399	—	68,204	846,363	449,646	1,296,009
無形固定資産	ソフトウェア	1,787	410	—	700	1,496		
	電話加入権	665	—	—	—	665		
	計	2,453	410	—	700	2,162		

(注) 1.建物の主な増加は、沼田店舗の給湯設備改修工事1,240千円です。

2.工具器具備品の主な増加は、液晶テレビ5,616千円です。

3.建設仮勘定の主な増加は、「寒河江店」以降の新規店舗の備品購入等です。

②引当金の明細

(単位：千円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
貸倒引当金	1,790	—	1,790	—	—

③ 販売費及び一般管理費の明細

科目	金額 (千円)	摘要
役員報酬	16,940	
給与手当	29,260	
賞与	3,060	
役員賞与引当金繰入	1,800	
法定福利費	8,945	
研修費・福利厚生費	448	
広告宣伝費	799	
旅費交通費	2,341	
通信費	1,808	
租税公課	334	
減価償却費	1,844	
地代家賃	2,257	
業務委託費	4,211	
支払保険料	851	
リース料	1,717	
光熱費	487	
支払手数料	610	
消耗品費	2,551	
郵送費	1,090	
その他	△47	
計	81,310	

2 【主な資産及び負債の内容】

① 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	8,978
預金	
普通預金	123,729
積立預金	5,500
計	129,229
合計	138,207

② 売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
楽天トラベル㈱	24
クオカード	396
じゃらんnet	137
クレジット	298
藤沢市産業振興財団	4
その他	230
合計	1,090

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円) (A)	当期発生高 (千円) (B)	当期回収高 (千円) (C)	次期繰越高 (千円) (D)	回収率 (%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間 (日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
859	25,400	25,169	1,090	95.8	14.0

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

③ 貯蔵品

相手先	金額(千円)
販売貸出品	2,913
客室及び客室外消耗品	6,118
合計	9,032

④ 差入保証金

相手先	金額(千円)
ETCカード	170
個人 (本社駐車場)	40
(有)カトレア (「山中湖店」所有者)	2,425
尾瀬林業㈱ (「沼田店」所有者)	2,268
個人 (「水戸大洗店」所有者)	2,079
個人 (「北上店」所有者)	2,079
双葉セメント工業㈱ (「仙台亘理店」所有者)	4,158
個人 (「小淵沢店」所有者)	1,890
㈱厚生冷蔵 (「九十九里店」所有者)	4,140
㈱リサ・パートナーズ (「東京新木場店、千葉勝浦店、須賀川店、いわき勿来店、牧之原店、葺崎店、土岐店、伊賀店、松阪東店、浜名湖店」所有者)	31,092
(有)浜比嘉インベストメンツ (「奈良針点、彦根店、桑名長島店、寒河江店」所有者)	10,578
㈱ゲオエステート (「金沢内灘店」所有者)	2,079
西日本高速道路㈱ (「壇之浦PA店」所有者)	2,399
東日本高速道路㈱ (「佐野SA店」所有者)	3,082
(有)朝倉ESTATE (「新潟南店」所有者)	2,284
個人 (「高松店」所有者)	2,430
富士急山梨バス㈱ (「富士吉田店」所有者)	2,635
厚生水産㈱ (「袖ヶ浦店」所有者)	2,380
合計	78,211

⑤ 短期借入金

相手先	金額(千円)
りそな銀行	50,008
合計	50,008

⑥ 1年以内返済予定長期借入金

相手先	金額(千円)
日本政策金融公庫	8,652
東京シティ信用金庫	25,978
三井住友銀行	11,274
合計	45,904

⑦ 長期借入金

相手先	金額(千円)
日本政策金融公庫	28,445
東京シティ信用金庫	20,810
三井住友銀行	27,500
合計	76,755

3 【その他】

(1) 借入金等明細表

財務諸表等規則に準じて作成した第17期の借入金等明細表は以下のとおりです。なお、当該明細表については監査を受けておりません。

(a)借入金等明細表

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	50,008	1.475	—
1年以内に返済予定の長期借入金	94,210	45,904	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	64,203	29,771	3.1	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	122,659	76,755	2.0	平成24年7月3日 ～平成28年7月20日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	640,765	646,775	3.1	—
その他の有利子負債	—	—	—	—
合計	921,838	849,213	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりです。

区分	1年超2年以内(千円)	2年超3年以内(千円)	3年超4年以内(千円)	4年超5年以内(千円)
長期借入金	28,660	28,660	15,694	3,324
リース債務	29,875	30,646	31,537	32,459

(2) 売上原価明細書

財務諸表等規則に準じて作成した第16期及び第17期の売上原価明細書は以下の通りです。なお、当該明細書については監査を受けておりません。

区分	第16期 (自平成21年7月1日至平成22年6月30日)		第17期 (自平成22年7月1日至平成23年6月30日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
I 人件費	193,220	28.3	196,810	28.3
II 経費				
販売貸出品原価	9,709	1.4	9,398	1.4
賃借料	196,924	28.8	198,306	28.5
広告宣伝費	17,930	2.6	23,516	3.4
水道光熱費	60,312	8.8	64,388	9.3
減価償却費	68,779	10.1	67,460	9.7
備品消耗品費	19,909	2.9	20,859	3.0
修繕維持費	4,445	0.7	4,841	0.7
その他	112,573	16.5	110,195	15.8
経費合計	490,584	71.7	498,968	71.7
売上原価合計	683,805	100.0	695,779	100.0

(3) キャッシュ・フローの状況

財務諸表等規則に準じて作成した第16期及び第17期のキャッシュ・フローの状況を参考までに掲げると以下の通りです。なお、当該状況につきましては監査を受けておりません。

区分	第16期	第17期
	(自 平成21年7月 1日 至 平成22年6月30日)	(自 平成22年7月 1日 至 平成23年6月30日)
	金額(千円)	金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー		
1 税引前当期純利益	18,524	17,278
2 減価償却費	72,762	69,305
3 過年度損益	—	△500
4 貸倒引当金の増減額	—	—
5 固定資産除却損	—	—
6 受取利息及び受取配当金	△37	△31
7 支払利息	23,724	26,283
8 売上債権の増加額	△410	△231
9 たな卸資産の増減額	479	△1,004
10 減損損失	—	—
11 未払消費税の増減額	4,811	10,562
12 その他の流動資産の増減額	42,084	3,341
13 その他の流動負債の増減額	1,371	1,965
小計	163,310	126,967
14 利息及び配当金の受取額	37	31
15 利息の支払額	△23,724	△26,283
16 法人税等の支払額又は還付額	△6,056	△9,034
営業活動によるキャッシュ・フロー	133,567	91,682
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
1 定期預金の預入による支出	—	—
2 積立預金の払戻しによる収入	—	—
3 有形固定資産の取得による支出	△14,263	△15,821
4 有形固定資産の売却による収入	—	—
5 無形固定資産の取得による支出	△0	△410
6 貸付による支出	△90	—
7 貸付金の回収による収入	3,000	3,100
8 その他	△366	△9,111
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,720	△22,242
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
1 短期借入金の純増減額	—	50,008
2 長期借入れによる収入	50,000	—
3 長期借入金の返済による支出	△94,610	△94,210
4 リース債務の返済による支出	△34,086	△35,837
5 株式の発行による収入	—	—
6 その他	—	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△78,696	△80,039
IV 現金及び現金同等物の増加額	43,150	△10,600
V 現金及び現金同等物の期首残高	105,657	148,807
VI 現金及び現金同等物の期末残高	148,807	138,207

(注) 1 キャッシュ・フローの状況における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資

2 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	第16期	第17期
現金及び預金	148,807千円	138,207千円
預入期間3か月超の定期預金	—千円	—千円
現金及び現金同等物	148,807千円	138,207千円

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	7月1日から6月30日まで		
定時株主総会	事業年度終了後3ヶ月以内		
基準日	6月30日		
株券の種類	1株券、10株券		
剰余金の配当の基準日	12月31日 6月30日		
1単元の株式数	—		
株式の名義書換え			
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店		
名義書換手数料	無料		
新券交付手数料	無料		
単元未満株式の買取り			
取扱場所	—		
株主名簿管理人	—		
取次所	—		
買取手数料	—		
公告掲載方法	官報		
株主に対する特典	平成23年6月30日現在の株主に対し、「レギュラーシーズン無料宿泊券」を次の基準により贈呈しております。		
	所有株式数	贈呈枚数	有効期限
	2株から4株	1枚	平成23年10月1日～ 平成24年6月30日
	5株から9株	2枚	
	10株以上	3枚	
(注) 1枚につき各店舗のレギュラーシーズンにおいて、レギュラールーム1部屋に1泊ご利用いただけます。			

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他参考情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成 22 年 9 月 16 日

株式会社旅籠屋

取締役会 御中



監査法人 よつば総合事務所

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員

公認会計士

神 門



指 定 社 員
業 務 執 行 社 員

公認会計士

片 岡



当監査法人は、日本証券業協会の「店頭有価証券に関する規則」に基づき、会社法第 436 条第 2 項第 1 号の規定に準じ、「経理の状況」に掲げられている株式会社旅籠屋の平成 21 年 7 月 1 日から平成 22 年 6 月 30 日までの第 16 期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。この計算書類及びその附属明細書の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

重要な後発事象に関する注記に記載されているとおり、平成 22 年 8 月 20 日開催の取締役会において、平成 22 年 9 月 17 日開催予定の定時株主総会に「資本金の額の減少ならびに剰余金処分の件」を付議することを決議している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

平成23年9月28日

株式会社旅籠屋

取締役会 御中

監査法人 よつば総合事務所



指定社員
業務執行社員

公認会計士

神 門 剛



当監査法人は、日本証券業協会の「店頭有価証券に関する規則」に基づき、会社法第436条第2項第1号の規定に準じ、「経理の状況」に掲げられている株式会社旅籠屋の平成22年7月1日から平成23年6月30日までの第17期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。この計算書類及びその附属明細書の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上